

平成28年8月22日（月）午前10時～午後3時45分に、本校会議室にて、弱視の児童生徒を担当・かかわりを持っている先生方を中心とした、弱視教育ネットワーク会が行われました。

研修1「専門家講話」では、「見えづらさのある子どもの見え方について考える」という題で、出田眼科病院の視能訓練士木下 雄貴先生による講話がありました。見えづらさとはどんな状態なのか、眼の仕組みと働きをもとに病状別に説明され、弱視の子どもの心理状態に気づき、個々の環境整備を整えることでケアをしていくことの重要性を話されました。

研修2「弱視特別支援学級経験者からのレポート」として、

熊本市立植木小学校 斎藤磨子先生が、「教育効果を高めるための指導のアイデア」を報告されました。交流学級での座席の配置や「コミック会話」などを使って絵と吹き出しを用いることで、会話の「見える化」を図り伝えたいことが明確になり、コミュニケーションをとることの楽しさを感じることができた。リコーダーを押さえやすくするために、木工用ボンドを重ね塗りしたことや部首と旁に分けた漢字パズルを使って効果があった。など指導上の合理的配慮をとおして効果を上げている事例を発表されました。

① 中学校での取組は、高等学校選抜考査に向けての指導・支援について私立高校と公立高校受験に向けての取り組みの発表がありました。

ア 私立高校への進学とその指導・支援

【話題提供】元大津町立大津北中学校 弱視特別支援学級担任 宮本彩野先生

イ 県立高校への進学とその指導・支援

【話題提供】錦町立錦中学校 元弱視特別支援学級担任 木村知樹先生

「弘くんの進路をどう保障するか」

・職場体験や高校体験入学で、コンピューターを使った授業に興味を持ち、地域の商業高校に受験して合格した。進路を決定する際、本人の将来へのビジョン、適正、高校での支援体制などを見据えて、学校長や進路指導主事も含めて定期的に面談を行って、本人、保護者の意思を確認していったことなどを発表されました。

【アンケートより】

・医療の専門的な立場からの話を聞くことができ、とても勉強になった。
・細やかな支援、手だてについて参考になり、教材教具の工夫、環境整備、交流の仕組みかなど多面的に取り組まれており、子どもの成長につながっていることを感じた。
・高校との連絡を密にとることや、進学にあたっての合理的配慮、小学校からつけておく力などが分かった。
など、多数のご意見をいただきました。

